

製品名: DPP7 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab10135

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	54kDa

抗原情報

遺伝子名	DPP7
別名	DPP7; DPP2; QPP; Dipeptidyl peptidase 2; Dipeptidyl aminopeptidase II; Dipeptidyl peptidase 7; Dipeptidyl peptidase II; DPP II; Quiescent cell proline dipeptidase
遺伝子 ID	29952.0
SwissProt ID	Q9UHL4
免疫原	ヒト DPP7 の C 末端領域から得られた合成ペプチド。

背景

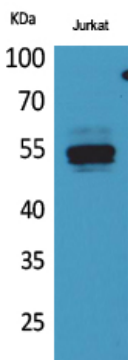
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、プロリン残基を切断するアミノペプチダーゼであり、静止期リンパ球で発現する。

休止期リンパ球はアポトーシスの抑制によって維持されるが、この新規セリンプロテアーゼの阻害によってこの状態は破られる。この酵素はプロリルカルボキシペプチダーゼと高い配列相同性を有し、酸性 pH および中性 pH の両方で活性を示す。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: N 末端ジペプチド Xaa-Yaa-|を遊離する。Yaa が Ala または Pro の場合に優先的に遊離する。基質はオリゴペプチドであり、トリペプチドが優先的である。機能: 一部のオリゴペプチドの分解において重要な役割を果たす。PTM: N-グリコシル化。類似性: ペプチダーゼ S28 ファミリーに属する。サブユニット: ホモ二量体。

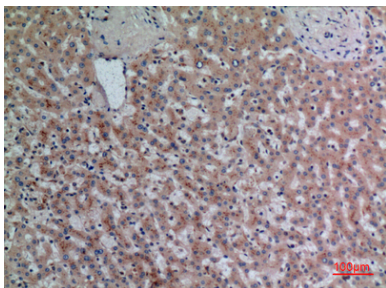
研究分野

-

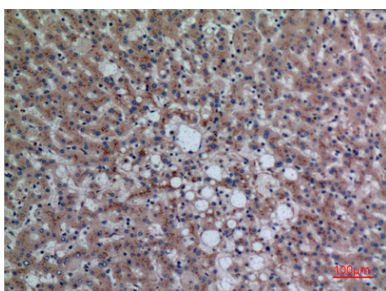
画像データ



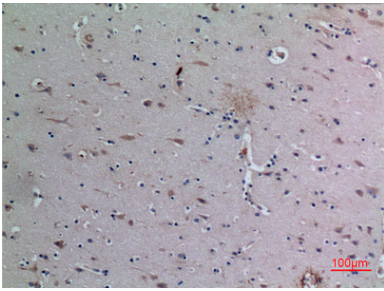
DPP7 ポリクローナル抗体を用いた Jurkat 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された